

北海道代表 岡本 雄矢さんのコメント



僕は芸人としても活動しているのですが、
今まで賞レースには縁がありませんでした。
なので今回「本の甲子園」に北海道代表として
出場できること、本当に嬉しいです。
『僕の悲しみに君は跳んでくれ』を
多くの方に知ってもらえるよう精一杯頑張ります！

岩手県代表 岩崎 まさえさんのコメント



十歳の少年二人が、
不当な扱いを受けた父親たちの真の姿を探す物語。
児童書ですが、
大人にこそ手に取って欲しい一冊です。

宮城県代表 蒼山 螢さんのコメント



宮城県代表に選出くださり感謝申し上げます。

喜んで力を尽くします。

いつも「この物語が少しでも心に届きますように」
と願い小説を書いています。

「知らん作家が選ばれている」という事が
更に本を楽しむ理由になれば嬉しいです。
盛り上がりましょう！

秋田県代表 小笠原 晃紀さんのコメント



2018年、第100回全国高等学校野球選手権大会で秋田県出身者だけの金足農業高校が旋風を巻き起こし準優勝に輝いた。

秋田県勢では第1回大会準優勝の秋田中学以来103年ぶりの快挙だった。

さて第1回「本の甲子園」、秋田旋風は吹くのか。
乞うご期待！

山形県代表 雲井 耕さんのコメント



遊牧騎馬民族を主人公にした歴史冒険小説です。
中高生も大人も映像を見るように楽しめる物語を
目指しました。

日本中の図書館で一人でも多くの人に読んでもら
いたい、映画にして世界中の人に観てもらいたい、
そんな夢の一步を今「本の甲子園」に踏み出します。

栃木県代表 村崎 なぎこさんのコメント



栃木生まれ栃木育ち栃木在住の私です。

本作の登場人物も全員同じく栃木生まれ栃木育ち
栃木在住。

物語の舞台も栃木で、県外シーンは一行くらい
しかないというオール栃木要素の小説で、
初の「本の甲子園」にチャレンジします。
キャラたちと一緒に頑張ります。

埼玉県代表 白蔵 盈太さんのコメント



『一遍踊って死んでみな』は、

こんな小説は絶対に自分にしか書けないと、

自信を持ってエントリーした作品です。

埼玉生まれ埼玉育ちの生粋の埼玉県人として、

埼玉の名を背負ってトーナメントに参加できるのが

何より嬉しいです。

皆さま宜しくお願いします！

千葉県代表 藤ノ木 優さんのコメント



千葉県の代表として選んでいただき光栄です。
なにやら面白そうな催しだと思い参加しましたが、
いざ県を背負うとなるとプレッシャーも感じます。
本の甲子園がこの先も長く続く大会になるよう、
皆様と盛り上げて参りたいと思いますので、
よろしくお願いします！

東京都代表 佐鳥 理さんのコメント



この本が発売になったとき、
小鳥の群れがついてくる夢を見ました。
素敵な出来事を運んできてくれたらいいなあ、
と思っていましたが、
このような舞台に引き上げてもらえるとは。
東京都の代表作品に選んでいただき光栄です。
全力で盛り上げてまいります。

東京都代表 宮内 悠介さんのコメント



まさかの東京代表でおじけづいていますが、
選んでいただいた以上、
自作を信じて行けるところまで行きたいです！

神奈川県代表 坂崎 かおるさんのコメント



幼稚園のころから毎週毎週本を限度いっぱいまで
借りてきた自分にとって、

図書館の仕事に携わる方から

推して頂けることはとても嬉しいです。

本はかわいい我が子ですので、

アルプス席から人一倍大きな応援をしてまいります。

神奈川県代表 岩井圭也さんのコメント



このトーナメント戦を通じてどんな作品と出会えるか、
とても楽しみにしています。
よろしくお願いします。

新潟県代表 桜井 美奈さんのコメント



今村翔吾先生の想いに共感し、参加しました。

本は一人でも届けられますが、

その広がりには限界があります。

この場を通じて、

より多くの人に作品を届けたいと思います。

石川県代表 城山 真一さんのコメント



デビュー10年の節目の作品で

県代表に選出されたこと光栄に思います。

この物語は地元の花街が舞台の現代ミステリーです。

読者の皆様には旅気分で金沢の街を味わって
ほしいと思います。

目標はただひとつ “日本一”

皆さま熱い声援よろしくお願いします！

山梨県代表 飛来 美兔さんのコメント



およそ文学賞というものには縁遠い身ですが、
このユニークな大会に代表として参加できること、
それだけでもう飛び上がる思いです。

この小さな、しかし私にとっては大切な本を、
ちょっとでも明るさのもとに引き出せたなら、
それも本望です。

長野県代表 麻根 重次さんのコメント



子どもの頃から、

図書館はいつでも私の居場所でした。

そしてデビューから今まで作家活動が続けられているのは、地元の応援あってこそです。

そんな二つの要素が交錯する「本の甲子園」。

燃えないわけがありません。

信州代表、頂点目指して頑張ります！

静岡県代表 一色 さゆりさんのコメント



この小説は聾者だった祖父への、
個人的な気持ちから出発しました。
その後、地元・静岡の手話教室でお世話になり、
舞台・徳島や東京で取材することで
様々な土地に根を張りました。
大好きな地元・静岡代表ですが、
全国の皆様に出会えることがとても楽しみです。

愛知県代表 虹乃 ノランさんのコメント



愛知県代表に選出いただき、感謝します。

「光を失っても、光は失われない」。

絶望の中にこそ宿る灯があると信じています。

ハリケーンで視力を失ったトビーと愛犬ハミィ、

ジャンとともに。本の甲子園を通じて、

あなたと出逢えることを願っています。

三重県代表 村上 しいこさんのコメント



この度は本の甲園に出場することができて
本当に嬉しいです。

これも応援してくれる人があってこそです。

三重県伊勢市を舞台にした「戦争」「青春」
「エンタメ」の世界で、まず一勝を狙っていきます。

滋賀県代表 櫻木 みわさんのコメント



びわ湖の島から、韓国や大阪に取材に通って書きました。推敲をしているときは、旅先のいろんな図書館で書きました。

刊行後は知らない街の図書館を検索し、誰かが借りてくれていることに感動していました。だから選んでいただいたことが、本当にうれしいです。

京都府代表 望月 麻衣さんのコメント



このような錚々たる面々が揃う「本の甲子園」という大舞台に、京都府代表として参加できることを大変光栄に思います。

全国の強豪作品たちと競うこのトーナメントを、精一杯楽しみたいです。

応援どうぞよろしくお願いいたします。

大阪府代表 土屋 うさぎさんのコメント



『謎の香りはパン屋から』は、
大阪に住んでいた経験があったからこそ
書き上げることができた物語です。
自分の暮らす街と小説の魅力を、
少しでも伝えられるように頑張ります。

兵庫県代表 森くま堂さんのコメント



幼い頃からの運動音痴で、ボールは顔で受ける私が
「ばんつのひもゆるざえもん」で、
仮にも甲子園出場とは人生の不思議である。
はかれてこそそのパンツ、むすんでこそそのひも、
そして読まれてこそその本というものだ。
この機会にお手にとっていただければ幸いです。

奈良県代表 瀬尾 まいこさんのコメント



トーナメント方式で小説が勝負するなんて、
初めての試みにドキドキワクワクです。
このような素敵な機会をありがとうございます。
これはもう楽しんだもの勝ち。
奈良県に深紅の優勝旗を持って帰ります！
(優勝旗ありますっけ？)

鳥取県代表 魚崎 依知子さんのコメント



愛する地元・鳥取の代表となれたことを
大変光栄に思います。

鳥取の皆さまに喜んでいただけたら、

また文学シーンの盛り上げに

少しでも貢献できたら嬉しいです。

この物語が、出会いに心ときめくものでありますように。

島根県代表 久住 四季さんのコメント



本の売上減少という現実には、
「良い作品を書くこと」以外に何かできないのか。
「本の甲子園」への参加は一つの答えでした。
「本との出会いは縁である」――
縁結びの地・島根県の作家として、
拙作もまた読者との縁を繋ぐ一冊となれることを
願ってやみません。

岡山県代表 三川 みりさんのコメント



素敵な本との出会いの場を、
すこしでももりあげられたら幸いです！

広島県代表 片島 麦子さんのコメント



このたびは広島県代表作品に

『ギブス』を選んでくださり、ありがとうございます。

自分に「運」があるかは正直わかりませんが、

「縁」は大切にしていきたいです。

この作品と出会っていただけたら、

こんなにうれしいことはありません。

徳島県代表 三國 青葉さんのコメント



このたびは、

選んでいただき大変光栄&うれしいです。

ありがとうございます。

徳島県代表の名に恥じぬよう

「踊らにゃ損損」精神でがんばります！

どうぞよろしくお願いいたします。

香川県代表 森 晶麿さんのコメント



「甲子園」なんて太陽のように眩しすぎて
無縁だと思ってきました。

しかしこのたび香川県代表として

「甲子園」に参加させていただくことに。

「球児」は無理でも「究児」にはなれる。

香川出身ではない分肩身の狭かった

在住作家ですが、県を背負って戦います！

福岡県代表 町田 そのこさんのコメント



楽しそうだと思っていた企画に参加できて、
すごく嬉しいです！
皆さんと一緒に全力で楽しみたいと思います。
応援してね。

佐賀県代表 愛野 史香さんのコメント



佐賀県の書店員さんや司書さん方に

応援していただき、応募しました。

これを機に自分の作品を

多くの方に知ってもらえたら幸いです。

宮崎県代表 榎 一志さんのコメント



いつも物語を完成させた時「遠くまで羽ばたいて
届くべき人のもとへ届くといいな」と願います。

この甲子園でも同じです。

新たな出逢いを求めて、そして宮崎県民の方々も
一緒に楽しんでいただけるように、

一つでも多く勝ち進められることを祈るばかりです。

鹿児島県代表 黒木 比呂史さんのコメント



江戸中期、

京都の公家社会を揺るがした「宝暦事件」を舞台に、
示現流の達人・上水流倫三郎が躍動する物語を
書き上げました。

歴史の闇に埋もれた事件に

光を当てたいとの思いからです。

薩摩隼人の血を引く主人公と共に、

鹿児島の地から優勝を目指します。

沖縄県代表 竹本 真雄さんのコメント



私は石垣島で人間と自然を見つめ、

小説を書き続けてきました。

島では大規模な土地の売買と

リゾート開発が進んでいます。

表題作は本土と沖縄との関係性の中で

ないがしろにされる故郷で、

主人公が怒りを表わす場面が見どころです。

辺境から全国に挑みます。